



#007

2016 Autumn



医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン

ETTO

Feature | 特集

地域医療最前線！ 私たちが、大切にしていること。 — 広島県。それぞれの地域の今 —



広島県地域医療支援センター
(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)
が発行する、
医学生・研修医・若手医師に
広島県の医療をPRするための
広報冊子です。
今号は福山市・尾道市・広島市の
3つの地域の病院に密着して
それぞれが目指す地域医療を
特集します。

医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン

ETTO

「えっと」 2016 Autumn #007

広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

高度医療から地域医療まで充実した 広島で臨床研修をしませんか



広島県には24の臨床研修病院があり、環境も病院規模も様々です。
多彩な臨床研修病院が提供するプログラムは、
必ずやあなたのニーズにマッチした研修を提供してくれることでしょう。

臨床研修病院合同説明会 (レジナビフェア) などへの出展



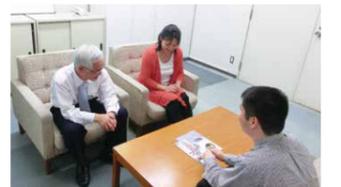
広島県では、県内で初期臨床研修を行っていただける医師を増やす取組みに力を入れています。
県内の臨床研修病院が共同で、合同説明会「レジナビフェア」・「マイナビレジフェス」に出展しています。
広島県の参加病院は、全員お揃いの真っ赤なベストを着て、一体となって医学生の方々を迎えています。

女性・ベテラン・若手の 活躍支援



県内で活躍する医師のために、様々な支援を行っています。
女性医師が働きやすい勤務環境整備・復職研修支援・子育てサポート、定年勤務医等への求人求職斡旋、若手医師への医療機関横断的な研修支援などを行い、やりがいを持って活躍できる環境整備を進めています。

広島県での就業支援



広島県での就業や臨床研修を考えておられる医師・医学生の方に、個別相談をお受けしています。
広島県の医療や研修病院など、幅広く丁寧にご説明します。
具体的な時期が決まっていなくても構いません。お気軽にご相談下さい。

暮らしやすく楽しめる広島

広島県は、「日本の縮図」といわれているように、経済・社会・文化・商業・工業の様々な要素をもち、「都市」としての機能を有しながら、「自然(海・山)」も豊富。最近ではサイクリストの聖地として「しまなみ海道」に来られる方も増えています。さらに全国・県内移動のアクセスに優れているのも特徴。どんな人にも住みやすく、自分らしく自由に暮らすことができる、贅沢な地なのです。



地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

広島県地域医療支援センター(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

<http://www.dn-hiroshima.jp>



広島県地域医療支援センターは、広島県・県内全市町・広島県医師会・広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保等のため、平成23年7月に設置された公的団体です。

わたしたちは、広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在解消のための配置調整や医師確保、人材育成等に総合的に取り組んでいます。

医師の立場からの助言ができるよう、自治医科大学出身の内科医師も勤務しており、みなさまのご相談やご希望を伺っています。



【お問合わせ】 広島県地域医療支援センター (公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)
〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2-3 広島県医師会館4階
電話：082-569-6491 FAX：082-569-6492 E-Mail：iryu@hiroshima-hm.or.jp



進化し続ける初期研修プログラムで 地域の救急、がん治療を支えていく！

福山市民病院

編集制作 【民間医局】株式会社メディカル・プリンシプル社
Art Director : 藤又シゲカズ Writer : さくまえり Photographer : 伊東昌信



内科 統括科長
内視鏡診断・治療センター長
植木 亨 先生
熊本県出身
岡山大学医学部卒業

内科 科長
太田 茂 先生
広島県出身
岡山大学医学部卒業

研修医 2 年目
市木 純哉 先生
愛媛県出身
岡山大学医学部卒業

研修医 1 年目
松田 勇輝 先生
広島県出身
岡山大学医学部卒業

蔵王山の麓、小高い丘の上にそびえる福山市民病院。広島県東部では最大の病床数を誇り、全国でもわずか140病院しかない「DPC II 群病院」に本年4月、県東部で唯一指定されている。高度ながん治療、そして、3次救急医療までを担う福山市民病院での研修は今、県内外から評判を呼んでいる。今回は、その秘密に迫った。

研修医の生の声は 翌年から反映されていく

植木：年々、初期研修医の人数も増え、私たち指導医は嬉しい限りです。
市木：救急科を希望しているのですが、ここしかないと思っていました。
松田：大学の先輩たちから福山市民病院の良い評判を聞いていました。その通りだと見学に来たときに感じ、ここで研修することに決めました。迷いはありませんでした。
太田：初期研修の人気を絶やさないためにも、常に進化し続けられる、柔軟性の高い教育体制でありたいですね。
松田：実際に、プログラムが今年から変わったと聞いています。
市木：去年、1年目にして救急科を回ったとき、当院は3次救急まで診ていることもあり本当に大変でした。その後麻酔科を経てみると、順番が逆だったらもっと手技や麻酔など救急で少しでも力になれるのにと、思ったんです。そのことをアンケートに書いたら、すぐに翌年反映され



ていて驚きました。
太田：やはり生の声が一番。直接は言いにくいことも、アンケートで率直な意見が聞けています。市木先生の意見は貴重な意見でした。
松田：5・6月に麻酔科を回らせていただきました。挿管や採血ルートの取り方など手技が多い科ですし、シミュレーション教育も受けられ、これから始まる救急科研修への心構えができたと思います。
市木：当院の救急科研修は、2回に分かれているのも特徴です。1年次に1か月、2年次に2か月。これは、一度に3か月続けるよりも、1・2年目で成長を感じられるようにと先輩方の意見が反映されたようです。
植木：救急を学ぶのに最適なのは、やはり若いうち、特に初期研修時代です。また、福山市は造船所や鉄工

所があることもあり、事故が少なくない地域だと思います。なので妥協することなく、救急の研修システムを改善していきたいんです。
太田：いくら研修中と言えど、手も足も出ない状態より、できることが少しでも増やせたところで救急に臨む方がモチベーションも上がりますよね。
市木：そうですね。研修医が実際の体験をもとに考えるプログラムだと、進化し続けますね。
植木：研修医のためはもちろん、結果的にそのことが地域や患者さんのためにもなりますしね。
ワンフロアの医局で垣根なし！救急とがん治療の両輪を回していく
松田：勉強会が多いことも恵まれているなど、見学に来ていたときから感じていました。
市木：毎月一回、洛和会音羽病院（京都市山科区）から、感染症科の先生を講義にお呼びしたり、週一回は症例発表や抄読会を開催したり、研修医が大勢在席している病院ならではの学習スタイルが確立されているのも魅力ですね。

太田：私がオブザーバーとして指導することもあれば、勉強会などでは率直な感想を伝えたり、場合によっては厳しい質問を投げかけてみたり。研修医の人数が多い割には、指導医と距離が近いのではないのでしょうか。
市木：そうですね。今は先生の厳しい指導についていくことが精一杯ですが、救急の現場などで、確実に役立つ。
植木：また、何と言っても当院はワンフロアに医師が集まる、中央医局制。各科が垣根なくつながっているから、勉強していても、急患でも、わからないことを質問しやすいでしょう？
松田：はい。困ったら上級医の先生を探せば何とか解決できますし、研修医のデスクは最も入り口寄りですから、皆さんによく声をかけてもらえます。
市木：救急以外にも、当院は最新のがん治療力を入れているので、各科の垣根がないことは、日々助かっていると感じます。
植木：救急もがん治療もバランスよく診ているから、各科のつながりがいいとも言えますね。救急はできるけれどがんは診られない、がんは診られるけど救急は苦手、とならないためにも、当院の初期研修はバランスを大事にしています。両輪を回せることが、今後の地域には重要でしょう。

全員：見学、大歓迎です！
太田：そういう積極的な若手にシネラルマインドをみんな伝えていきたいですね。
松田：たった数か月でも患者さんやスタッフとのコミュニケーションが大切だと痛感します。逆に、コミュニケーションが取れる方なら、当院の研修はとても楽しいはず。
市木：これだけ柔軟にプログラムが変わる初期研修です。積極的に学び、発言し、一緒に成長していきたくれる後輩なら心強いですね。
松田：たった数か月でも患者さんやスタッフとのコミュニケーションが大切だと痛感します。逆に、コミュニケーションが取れる方なら、当院の研修はとても楽しいはず。



福山市民病院
〒721-8511 広島県福山市蔵王町5丁目23-1
TEL: 084-941-5151 FAX: 084-941-5159
E-mail: shimin-byouin@city.fukuyama.hiroshima.jp
Hospital Director : 坂口 孝作
■ 病床数: 506床
■ 指導医: 40名
■ 初期研修医: 17名
<http://www.fukuyamacity-hosp.jp>





医療の分野以外にも 医師が診るべきことがある

公立みつぎ総合病院



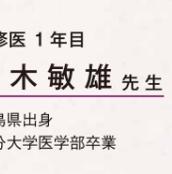
尾道市街地から車でおよそ30分。山々に囲まれ、緑豊かな御調町を中心に、周辺の5市1町、人口約6万人を診療圏とする中核的総合病院「公立みつぎ総合病院」がある。国内初の「地域包括ケアシステム」を構築したことで知られるこの病院での研修において、研修医たちは今、何を感じているのか聞いてみよう。



副院長 地域医療部
沖田光昭 先生
広島県出身
広島大学医学部卒業



研修医 1年目
堀口崇典 先生
大阪府出身
宮崎大学医学部卒業



研修医 1年目
内木敏雄 先生
広島県出身
大分大学医学部卒業

患者さん一人ひとりの
人生の岐路に寄り添う医療であれ

沖田：ここは、地域包括ケア発祥の地。私たちも、それを名乗るからには地域の最前線を見てもらえる研修を用意しているつもりですが、どうか。

堀口：指導医が変わらずに、マンツーマンで教わることができて嬉しいです。内木：スタッフが一丸となって動くチーム医療の現場を体感できています。

堀口：施設で具合が悪くなられた方を診させていただく機会がとても多いことに驚きました。

内木：都市部の中核病院の場合、ある程度診断が決まった状態で紹介されるケースが多いと思いますが、ここでは自分たちで患者さんを丸ごと診られる楽しさがありますね。

沖田：2人とも、この地域の特徴を理解して、地域包括ケアの実践の場に立ってくださっているね。

内木：先日、意思疎通が難しい患者さんで肺炎の治療が終わり、食事を再開した方がいらっしゃいました。施設の

方に何うと、以前は食欲があったよう

だから、食事は難しくなっていました

のかと悩みましたよね。

堀口：ST（言語聴覚士）に食事介助のコツを教わったら、スムーズに召し上がってくれて、嬉しかったですね。無事に口から食事ができる生活に戻れてホッとしましたよね。地域医療に携わるプロの仕事を見られた瞬間として、とても印象的でした。

沖田：病気が治っても、口から食事ができなくなることは患者さんにとって大きな変化。私たち医師は患者さんを診させていただくチームの一員として、こうして他職種の知恵を借りながら、病気だけではなく患者さんの人生の岐路に寄り添うべき。



研修医室で手技の練習をする堀口先生と内木先生

堀口：退院した後の訪問看護・介護やリハビリも密に行いますから、治療後のケアでは思った以上に生活の背景を知る必要があると感じました。

内木：手すりが必要なのか、スロープなのか、トイレの段差なのかと、患者さんが何に困っていて、何が必要かを考えることが重要だと気付きますね。

沖田：指導医がこうした現場を見せるようになったルーツは、昭和40年代に始まった「寝たきりゼロ作戦」。高齢の患者さんの多くが、手術後に退院できても、半年から1年ほど経過すると寝たきりになって再入院してたんです。当時の院長（現山口昇名院長）が「入院と外来だけでは解決できない」と在宅診療に向かうようになりました。

堀口：私たちはその歴史の上で研修しているのですね。

内木：普通、総合病院は患者さんの紹介を受ける側だと思っていました。訪問診療が地域包括ケアの大きな柱だからこそ、総合病院に名称変更されてからも続けているのですね。

沖田：その通り。2025年問題を考えたら当然です。この地域は既にかなりの高齢社会。医師の専門性だけでは、隙間ができるのではないかと思っています。患者さん本人と、医師との間の隙間です。様々な角度から全体を診て、その隙間を埋められる医師のマインド、総合力、チーム力が必要な時代でしょう。

内木：その隙間を埋めるには、やはり現場を見てみないとなかなか患者さん

の生活を想像するのは難しいですね。

堀口：専門を決める前、初期研修期間の今こそ現場を見られるチャンス。時期。ここへ来て良かったです。

沖田：ありがとう。専門医になるための手技は、後でいくらでもできます。今、専門知識を詰め込んで、5年も経てば古くなることも。それよりも、医師としての基礎を作ってほしい。

内木：「家を建てるなら、基礎づくりが大事」という沖田先生のお言葉に感銘を受けて、研修を当院に決めました。

堀口：ここなら患者さんの病気だけでなく、人生そのものに関わられる。大阪生まれ、宮崎大学卒業なので、地縁はなかったのですが、来て良かったです。

沖田：回復後に、人生の目的や楽しさを感じてもらえるところまで診るのが医療の本来の役割。それを体感してもらえているようで嬉しいですね。

全員：「地域包括ケアシステム」という言葉は知っていても、現場を体験しなければわからないことがたくさんあります。ぜひ一度、当院で体験してみませんか！



公立みつぎ総合病院

〒722-0393 広島県尾道市御調町124
TEL: 0848-76-1111 FAX: 0848-76-1112
E-mail: mcw124@poppy.ocn.ne.jp

Hospital Director:
西村修平

■病床数: 240床
■指導医: 16名
■初期研修医: 3名

<http://www.mitsugibyouin.com>



広島カープの試合を観戦しにマツダズームズームスタジアムへ。「これも、福利厚生です！」と、大阪育ちでありながら、実は広島カープファンという堀口先生。





広島市東区の中核病院として、
本格的ながん治療の拠点として、地域へ貢献！

医療法人JR広島病院



1920年の創立以来、およそ1世紀におよぶ歴史を紡いできた「広島鉄道病院」。
2016年からは「医療法人JR広島病院」として生まれ変わり、新たなスタートを切った。
今日は、新築したばかりの病棟で研修がはじまった研修医に、その様子を聞いてみた。

研修医 1年目
飯島 綾 先生
兵庫県出身
広島大学医学部卒業



研修医 1年目
後藤 玲美 先生
愛知県出身
広島大学医学部卒業



教育研修部長
中山 宏文 先生
広島県出身
広島大学医学部卒業



夢を描き、叶えられる！
そんな初期研修医時代を送ろう

中山：研修がはじまって数か月ですが、2人とも研修は充実していますか？
飯島：大満足の研修内容で、とても充実しています。東区の基幹病院という立ち位置ですから、私たち研修医も地域の診療所の先生とつながりを意識し、地域医療を感じています。「CTがないから」「専門医にも診てほしい」など様々なご要望でご紹介いただくので、地域の先生を支援する病院ののだと実感できました。

後藤：当直で患者さんを診ていると「とにかく心配で」、「夜中でどうしていいかわからなくて」という方も多く、かかりつけとしての役割で地域の方々とつながっているのだと感じます。余談ですが、大学の同期から新病棟で羨ましいと言われます。

中山：そうだね、地域の先生と住民の両方に、貢献しなければなりませんね。新病棟では新たに透視センターや健診センターを設置するなど、診療基盤も広がりました。内視鏡室の充実や放射線科の画像診断機器がより高性能になりました。さらに、温熱療法室の新設、化学療法センターの拡充、そして緩和ケア病棟の稼働等治療を含むがん診療が充実してきました。そして地域との連携も今まで以上に推進しています。

後藤：隣接している広島がん高精度放射線治療センター（以下、センター）の先生にもご参加いただきキャンサーボードでは、内視鏡画像やCTを見ながら、各専門家の知識・知恵・経験が集結されていて、



がん治療の最前線のだと実感します。

飯島：この手術はこちらで、この症例はセンターで治療を、などシビアな選択を迫られるディスカッションに私たちも同席できて勉強になっています。

中山：センターに在籍するがんの放射線治療専門医と顔を合わせ、より近い関係で連携できるようになったことは患者さんにとっても、私たち医師にとっても素晴らしい進歩ですね。

後藤：こうした最先端の治療法もじっくり学びたいです。2次救急までを担当し、多忙を極めることはさほどない当院は、コツコツ勉強したい研修医に最適な環境だと感じています。

飯島：指導医の先生方がおっしゃっている「一症例一症例、患者さん一人ひとりを大切に」をなるべく実践したいので、勉強する時間を与えてくださる環境があります。

中山：とことん勉強して、一人ひとりの患者さんに関してわからないことをなくせるぐらいにまで向き合ってくださいね。

飯島：それくらい、症例も独り占めできる環境が嬉しいですね。

後藤：研修医が2人だけという少人数の良さです。2年目の自由選択期間も、いろいろな科を回りながらギリギリまで考えさせてもらえます。

中山：初期研修プログラムは、将来有望な研修医の皆さんの夢を叶えるためのものでなければいけないから。その基盤にしてほしいし、自由に希望を言ってほしい。そうだ、皆さんの夢や目指す医師像は？

後藤：それが、学生の頃は研究に興味があったのですが、何を聞いても答えにくく、ジェネラリストの先生と当院で出会い、臨床の現場に興味がある。飯島：実は、私もです。もともとは病理一筋で医師人生をと思っていたのですが、患者さんと接するうち、臨床の現場にもやりがいを感じていて。

中山：2人とも、夢を描き始めたところだね。

飯島：自分が考えていたことばかりでなく、様々な経験を通して、目指す医師像を見つけたんです。

後藤：病院全体で暖かく見守ってくださることに感謝し、ベテランの先生方やコメディカルの皆さんとの出会いから学び、将来を考えていきたいです。

中山：のびのびの夢を描き、叶えられるようにこれからもプログラムを考えていきたいね。学生さんにもぜひ一度見学に来てほしい。

後藤：ピカピカの新病棟や、のびのびした研修風景を一度見てほしいです。

飯島：きつとスタッフの皆さんのアットホームな雰囲気を感じていただけると嬉しいです。

全員：ぜひ、見学にお越しください！

広島がん高精度放射線治療センターとは

2015年、より高精度な放射線治療を提供できる医療体制を整えるため「広島がん高精度放射線治療センター・HIPRAC（ハイブラック）」が開設された。広島駅から徒歩5分の立地にあり、公共交通機関での通院がしやすく、ライフスタイルを大きく変えない通院での治療ができる。がん対策日本一を目指す広島の、がん放射線治療の新拠点として期待されている。また、がん治療専門だからこその気遣いやプライベートな空間が利用者から好評を得ている。

広島がん高精度放射線治療センターで行う高精度放射線治療で意義の高い疾患例
前立腺がん、頭頸部がん、肺がん、乳がん、原発性脳腫瘍、転移性脳腫瘍、肝臓がん、すい臓がん、その他



最新の動体追尾放射線治療が可能な[Vero-4DRt]

HIPRAC [ハイブラック]
広島がん高精度放射線治療センター
〒732-0057 広島県広島市東区二葉の里三丁目2番2号
TEL: 082-263-1330
<http://www.hiprac.com>



医療法人
JR 広島病院

〒732-0057
広島県広島市東区二葉の里3丁目1-36
TEL: 082-262-1170 FAX: 082-262-1499
E-mail: jrhhp@orange.ocn.ne.jp

Hospital Director:
小野 栄治

■ 病床数: 275床
■ 指導医: 11名
■ 初期研修医: 2名

<http://www.jrhh.sakura.ne.jp>